

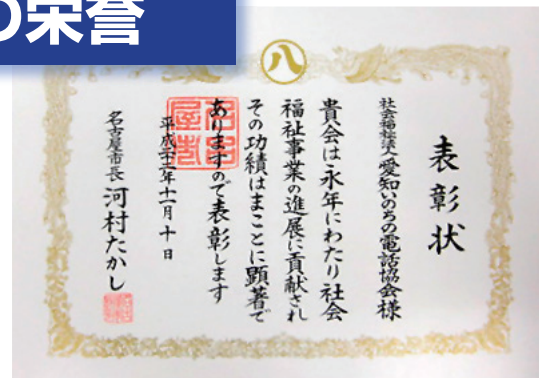
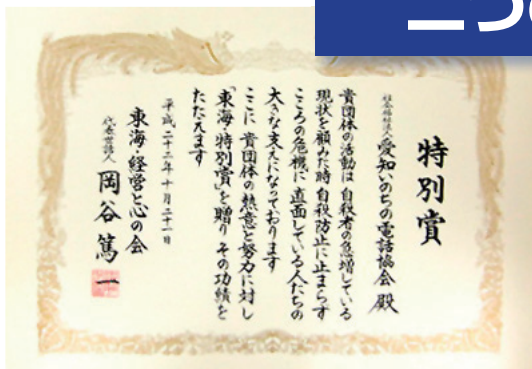


社会福祉法人愛知いのちの電話協会

# 名古屋いのちの電話

2010年は名古屋いのちの電話が開局いたしまして25周年を迎えました。  
そしてこの年、素敵な感謝状が授与されました。

## 二つの栄誉



名古屋市から社会福祉事業の貢献による表彰状と、東海・経営と心の会からの特別賞で、過去3年連続でその栄誉を賜りました。

## 五つの功績

① 今年3月にこれまでの電話相談室のあった名古屋市中区丸の内から、東区に移転する事となり、改築工事もつつがなく完了し、電話相談も一日の中断もなく移転が完了いたしました。相談室もそれまでのものから、1.5倍の広さと防音装置の完備した、ゆったりしたもので常時3台の電話ブースと、毎月10日のフリーダイヤル専用ブースが設置され、4台稼働する立派な相談室が出来上がりました。



② 4月からはインターネットのホームページが開設いたしました。淡いパステルカラーを基調としたものでアクセス数も急増しています。  
(ホームページは <http://www.nagoya-inochi.jp/>)



③ 6月には奇跡のピアニスト「館野泉のピアノリサイタル」が25周年記念公演として、しらかわホールで開かれました。



④ 9月には25周年「自殺予防シンポジウムと感謝会」が名鉄ニューグランドホテルで開催多数の参加で盛況に執り行われました。

⑤ 同じ月に自殺予防緊急基金で「もしもしいのちの電話」という小冊子を発行しました。広く皆様方に読んで頂きたいと思い、興味の方は協会までご連絡ください。



## 朝は必ずやってくる

梶原 壽 (日本M.L.キング研究会 幹事)

「群馬県桐生市の女兒が、編みかけのマフラーを使って自宅で命を絶った。2年前、お父さんの転勤で愛知県からやって来た少女、友達もできたが、5年の途中から汚いなどと疎まれ、仲間はずれが始まる。仲よし同士が集まる給食の時間、彼女は一人になった。班替えをしても一人。そっと肩を抱く級友は現れなかった。体調を崩し、休みがちになったが、学校側はいじめとまでは考えなかった。少し前に描いた漫画が見つかった。題は『やっぱり友達っていいな!』。

転校した女子が温かく迎えられる絵は、見果てぬ夢であろう。体の内側を冷たい粘液が垂れ伝うような、深い孤独。12歳の〈わたし〉に、死を選ばせた絶望を思う。最後に巻いたマフラーは、南国出身のお母さんに贈るはずだった。その人が発見者となる。」

これは去る2010年10月29日の朝日新聞の〈天声人語〉欄に載った記事の主要部分です。私はこの記事を読んで胸を締め付けられるような思いに沈みました。そして思わず、私が年来研究してきたマーティン・ルーサー・キング牧師の次のような説教の一節を思い出しました。

「私は今日皆さんに、あきらめるなど申し上げたいと思います。嵐が皆さんをよろけさせるかもしれません。混乱の突風が皆さんの周りを吹き荒れるかもしれません。しかしどうかあきらめないでください。投げ出さないでください。真夜中はいつまでも続くものではありません。」

皆さん、私たちの昔の奴隷の先祖たちはこのことをよく知っていました。彼らは真夜中について考えました。そしてそれに対処する小さな歌を作りました。『だれもわたしの経験している悩みを知る者はいない。主イエス以外にはだれもいない。』それは彼らにとっての真夜中の様子をよく叙述しています。しかし何ものかが彼らに、朝がやってくることを思い起こさせました。そこで彼らは、『悩みはいつまでも続くものではないので、わたしはうれしい』と歌いました。朝は必ずやってきます。もしそれを信じるなら、私たちは今の暗い日々を生き抜くことができます。どうか立ち上がって、人生の諸問題に決断的に立ち向かい、私たちの苦悶を資産に変えましょう。……

さらに私は、私たちの先祖が飛び降りなかったことを喜びます。それは全くの真夜中でした。彼らは来る日も来る日も、煮えくり返るような暑さと、監督の生皮の鞭と、綿畑の長い敵の他には何も待ち望むものはありませんでした。しかし、彼らはその真夜中の経験を生き抜いて、アメリカのために最も独創的な美しい音楽を残しました。どうかその音楽を聞いてください。私は彼らが飛び降りなかったことを喜びます。もし彼らが飛び降りたとしたら、私は誰かが、『ゆっくり走れ、わたしを故郷に迎える凱旋車よ』歌うのを決して聞くことがなかったであります。……もし彼らが飛び降りたとしたら、私は誰かが、『ギレアデには香油があって、傷ついた者を癒してくれる。時々わたしは意

気沮喪して、わたしの業は無駄ではないかと考える。だがその時、聖霊がわたしの魂を生き返らせてくれる』と歌うのを、聞くことがなかったであります。飛び降りてはいけません。生き続けて歌を作りましょう。朝は必ずやってきます。皆さんに繰り返し与えられるメッセージは、とにかくやり続けようということです。〈にもかかわらず〉の質を育てましょう。……」(説教『真夜中に戸をたたく』、1968年3月24日、ニューヨーク市ハーレム、ケイナン・バプテスト教会)



ご承知のように、いのちの電話の原点は英国国教会司祭のチャド・バラーが1953年に創設した〈サマリタンズ〉です。そしてバラーがその組織を作ろうとしたきっかけは、14歳になる少女が初潮という祝福すべき自然的経験を性病と誤解して悩んだのに、誰にも相談することもできず一人苦しんだ果てに自殺した事件に出会い、その埋葬に立ち会ったことであると聞いています。前掲の桐生の女兒の悲劇といい、バラーの心を動かした少女の悲劇といい、私たちには

誰でも人に打ち明け、とことん話し合ってみたいのにそれができずに、一人問題を抱えて悩み苦しむという経験があります。

私にもささやかながらそれに似た思いが最近あり、思い切って遠くアメリカまで出かけて行って話し合った結果、本当に癒され、心の解放を得たという体験がありました。

今年初めから私は米国ノースカロライナ州所在のデューク大学神学部教授リチャード・リッシャー氏の著作『説教者キングーアメリカを動かした言葉』の翻訳に携わってきましたが、本文部分を訳した段階で、内心深く何とか著者に直接会えないものかという衝動が強烈に沸き起こってきました。私が前回訪米したのは2005年でしたが、以来5年間再度訪米の気持ちは全く持っていませんでした。3年前に50年間人生を共にした妻を膵臓癌で天に送って以来、特にそうした意欲は感じたことはありませんでした。

ところがこの著作の翻訳に携わってから、キング牧師を支えた根元的思想が「不当に受ける苦難には贖罪の働きがある」、もっとくだけた言い方で言うなら「不当に受ける苦難は人を救う」ということだったことが色々な角度から論述されていることに接し、その思想についての私なりの理解と疑問をめぐって直接著者と話し合ってみたいと思うようになりました。

その際私のその思いには、単に神学的な面での論点だけでなく、妻の苦しんだ膵臓癌という術後生存率絶対希少の病気との闘いの人生の意味についても、同時に話し合ってみたいという気持ちもありました。闘病の日々の中で時々妻のもらした「悔しい」というため息にも似た言葉に、宗教家でありながら私はただただ絶句するのみでした。ひたすら誠実に牧師である私を助け、子供たちの育成と家庭の維持に尽くした妻の好んだ草花は〈霞草〉でした。そんな妻の耐えた苦難はまさに〈不当に受ける苦難〉だったのではないかと。しかしそのような問題をとことん話し合う相手にはなかなか出会えませんでした。リッシャー氏ならばもしかすると、という思いがふつふつと私の心中深く沸き起こってきたのです。しかし同氏とは今まで一度も会ったこともなければ、デューク大学を訪ねたこともありませんでした。

何回か断念しようかと努力してみましたが諦められず、ついに意を決して去る10月5日から8日までの切り詰めた予定で彼地を訪れることに踏み切りました。そしてその結果驚くべき貴重な成果を得ました。地球の向こう側から押し掛けて来た一面識もない私を、リッシャー教授は実に温かく迎え入れ、二泊三日の滞在中文字通り精魂こめて私の魂の叫びに耳を傾けてくださいました。

何百年にもわたる奴隷制から人種隔離・差別の歴史を生き抜いてきた黒人たちに、なお愛と誠意をもって白人たちに対応し、あくまでも非暴力思想を貫いて、もし血を流さなければならぬ時があるならその血はわれわれ黒人が流すべきだと説いたキング牧師の説得は、余りにも〈過酷〉ではありませんか、という私の訴えに、リッシャー教授はただ黙ってじっと耳を傾けていました。そしてやがてただ一言、「でも歴史はそのような犠牲者の誠意ある行動によってだけ変えられてきましたよね」とぼつりと言いました。私もただ黙ってじっと聞き入っていました。

やがて私たちの会話は自然とお互いの個人的問題へと移って行き、私が3年前に妻を不治の難病で天国に送ったことを話しますと、教授も5年前に青年法律家としての働き盛りのご長男を皮膚癌で天国に送られ、今はその幼い遺児たちの学校への送り迎えを自分たち老夫婦で行っていると話されました。私は何か急に熱いものが胸に込み上げて来るのを禁じることができませんでした。

帰路、私はノースカロライナ州ダーラムの空港まで自動車で私を送ってくださった同教授と固い握手をして別れましたが、その後20時間かかった長い空の旅をとっても満たされた気持ちで帰ってきました。深い暗夜の後にも、朝は必ずやってくるのだとの思いもかみしめながら……。



## 25周年記念

加藤 省吾 (社会福祉法人愛知いのちの電話協会 事務局長)



すべてのイベントがそうであるように終了してしまうとその成果、反省よりも虚脱感のほうが大きい。もうそろそろ25周年の企画を立てないと間に合わないよと回りからせつつかれたのは、手元の記録によれば、2年前の2008年の秋のことでした。企画委員のメンバーとして、理事、評議員、各委員会の代表や、電話相談員、友の会、そして事務局長の私の名前があがっている。たまたま私が演劇界出身という事もあって、それまでも市民公開講座で、「自殺って言えなかった」の編集者をよんできたり、東尋坊の茂幸雄氏や、NHKのテレビディレクターの伊豫田静弘氏、そうして映画上映会では「風のダドゥ」の監督中田新一氏や、「待合室」の板倉真琴監督とのトークまでやって、何かと出たがりやという汚名まで被っていた。そんな中から、25周年の候補企画には、とびっきりの有名人を招聘するで、候補に挙がったのは、瀬戸内寂聴、養老孟司、谷川俊太郎、柳田邦男、五木寛之、藤原新也、夏樹静子、石田衣良、落合恵子、渡辺えり子、吉本ばなな、……と枚挙にいとまがないほどであったが石原慎太郎の名前は挙がってこなかった。そんな模索の最中に話があげたのが中編映画の制作で企画書

までとったりしたが挫折。他にも北京歌劇団と京劇も企画を持ち込まれたが途中で有耶無耶になってしまった。

そんな頃、これらの構想とは別に、何か実現可能な目玉企画を出さないと本当に時間的にも無理になると再三催促されて腰を上げて動き始めたのは、2009年の夏からでした。そうして結論から言って、これまであれこれ模索した著名人の講演会よりも、音楽のほうが感動が大きいのではないかということで、とりあえず色々な音楽会や、ライブを聴きにいった。私個人としては、音楽家の林光氏に非常に食指を動かされ、彼の映画音楽を中心に、映画と語りで構成した舞台を演出したくなった。それと丁度前後して、館野泉氏のピアノコンサートを八ヶ岳に聴きにいったまさに電光石火のごとく氏のエネルギーに参ってしまっただけで即座に公演をお願いしてしまったのである。

その交渉が進む中、25周年記念誌の発行では、一期生の相談員、前理事長の長岡利貞氏、元事務局長の木本精之助氏、相談委員長の兼田智彦氏を中心に編集部会が始まり、原稿依頼が進んでいった。それと平行して、自殺予防のシンポジウムを企画されたのが東邦学園の理事榊直樹氏で、彼は精力的に、その企画をあっという間にまとめあげられ、会場も名鉄ニューグランド ホテルが決まった。そうしてシンポジウム当日に同時に感謝会を開催する事も決定した。

つつがなく半年前にはすべての企画は順風満帆にしているようであった。ところがである、10月になって突如、非常事態が起きてしまった。いまある電話相談センターをどこかに移さなければならないということである。活動の場を急遽見つけなければならない。そんな重大事が25周年の企画中に起きるなんて魔がさしたのだ、何はさておきまずは移転が先だという羽目になった。一時は自前のセンターを購入という話も持ち上がったが、資金面からそれも不可能となり、これまで通りの賃貸のセンターを見つけてくるよう理事会での決定事項であり、10月11月と毎日物件探しに翻弄する日々仕事に中心が移ってしまった。毎日が徒労に帰すような虚しいに日々で気持ちは焦るのみであった。ところがこれもこれも奇跡というか、株式会社近江屋社長の杉浦一宏氏のご尽力とご理解あって、新しい移転先が即決になった。そうして業者の落札も終えて、3月には新しいセンターに引っ越しが決定し、すべて落ち着いた。

この中断時期があったにも関わらず4月には、新しいプロジェクト小冊子の発行が兼田氏の英断で具体化した。9月の記念式典に間に合わせられ



るとのことで期待した。同時に25周年誌も原稿が入り、編集委員も毎月遅くまで編纂に時間を割いてくださった。

今年の夏は毎日が本当に暑く、会社訪問はそれこそ大変であったが、いのちの電話にご協力いただいた方々へのご挨拶と9月11日の感謝会出席をお願いに色々な企業を訪問した。その時期は、私がこのいのちの電話に入ったころの引き継ぎで挨拶回りをした時を思い出すセンチメンタルジャーニーの感であった。

そうしてよいよ9月11日。その日は幾分穏やかな気候に戻ったがまだ真夏日の様子で、シャツは半袖でいいか、長袖にするか、式服は正装にしたがいいか、黒目のジャケットと渋いネクタイだけでいいのか迷いながら、一応それなりの様相で出席した。前日まで、当日のシンポジウム出席の問い合わせがあつて、200人くらいの入りかなというよみをしていた。ところが実際、蓋をあけると、来賓、マスコミ、一般の方々を含めて245名の出席者があつた。基調講演には、奈良女子大名誉教授の清水新二氏の「社会問題としての自殺」で、一時間の講演であった。そうしてそのあと、「こころのカフェきょうと"自死遺族サポートチーム"」石倉紘子氏、「共同通信社放送編成部デスク」川井猛氏、「共和病院名誉院長」榎本和氏のパネルディスカッションで「自殺とどう向き合うか」のシンポジウムが執り行われた。そのあと会場を移して「25周年感謝の会」が17時より盛大に開かれた。席上来賓の方々からの祝辞メッセージをいただき、遅れて出席された名古屋市長河村たかし氏が壇上に登られたころには、会場も大いに盛り上がり、出席者の方々の記念写真に華が添えられた様相であった。当日はまた25周年の記念誌「いのち支えてー25年の軌跡ー」、機関紙「25周年記念特別号」、そうして小冊子「もしもし、いのちの電話ですー心がつらいとき開く本ー」が配られました。



こうして午後18時30分、式も無事終了し、会場から最後の一人が去っていくとどっと疲労感がおそってきたようでした。当日感謝会の進行役の松岡氏、写真班の神野氏、柘植氏、そうして受付係のスタッフメンバーの方々、実行委員長の植田望氏、最後にご来賓の皆様どうもありがとうございました。



名古屋いのちの電話は次の大きなイベント30周年、50周年に向けて、ますますの発展を続けられることを願っています。



## クリスマス・年末 特別寄付のお願い

本年もまもなく、クリスマス・年末の季節をむかえようとしています。例年この時期には「いのちの電話」の活動のために、特別寄付金を募っております。

今年も何卒よろしくご協力をお願いいたします。

送金先：三菱東京UFJ銀行大津町支店（普）477029

郵便振替口座 00810-8-53758

口座名：社会福祉法人 愛知いのちの電話協会



### 賛助会員を募集しています

#### ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。

会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力添えを賜りますようお願いいたします。

社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員（年間1口）A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会

口座番号 三菱東京UFJ銀行大津町支店（普）477029

郵便振替口座 00810-8-53758

# 2009年度決算報告

## 2009年度収支計算書

## 2010年度予算

単位：円

単位：円

科 目	決 算 額
<b>(貸方) 収入の部</b>	
助成金	700,000
賛助会費 (A)	880,000
賛助会費 (B)	500,000
賛助会費 (C)	287,000
会費 (法人)	2,560,000
寄付 (個人)	3,402,600
寄付金 (法人)	1,141,930
年末募金	785,000
登録更新料	219,000
講座受講料	1,498,960
受取利息	1,727,679
雑収入	264,037
当期収入合計 (A)	13,966,206
前期繰越	12,342,880
収入合計 (B)	26,309,086
<b>(借方) 支出の部</b>	
事業費	
研修費	2,492,082
広報費	424,152
連盟分担金	300,000
(事業費合計)	(3,216,234)
管理費	
人件費	5,137,900
需要費	
法定福利費	42,150
旅費・交通費	-
家賃	3,544,500
共益費	100,000
光熱水道費	589,723
営繕費	1,095,150
賃借料	325,080
通信費	363,504
文具印刷費	168,525
消耗品費	210,456
雑費	878,725
東海地震対策費	-
25周年記念事業準備金	2,000,000
(管理費合計)	(14,455,713)
当期支出合計 (C)	(17,671,947)
当期収支差額 (A) - (C)	(△3,705,741)
次期繰越収支差額 (B) - (C)	8,637,139

科 目	予 算 額
<b>(貸方) 収入の部</b>	
助成金	7,275,000
賛助会費 (A)	1,000,000
賛助会費 (B)	600,000
賛助会費 (C)	400,000
会費 (法人)	2,500,000
寄付 (個人)	2,000,000
寄付金 (法人)	1,500,000
年末募金	1,000,000
登録更新料	200,000
講座受講料	1,500,000
受取利息	1,200,000
雑収入	50,000
当期収入合計 (A)	19,225,000
前期繰越	8,637,139
収入合計 (B)	27,862,139
<b>(借方) 支出の部</b>	
事業費	
研修費	4,000,000
広報費	2,600,000
連盟分担金	320,000
諸会費	10,000
調査研究費	30,000
会議費	20,000
(事業費合計)	(6,980,000)
管理費	
人件費	5,200,000
法定福利費	200,000
旅費・交通費	50,000
家賃	2,664,000
共益費	300,000
光熱水道費	700,000
営繕費	4,000,000
賃借料	325,080
引越等費用	1,500,000
通信費	500,000
文具印刷費	200,000
消耗品費	1,500,000
雑費	400,000
東海地震対策費	2,000,000
(管理費合計)	(19,539,080)
当期支出合計 (C)	(26,519,080)
当期収支差額 (A) - (C)	(△7,294,080)
次期繰越収支差額 (B) - (C)	1,343,059

# ご援助ありがとうございます

2010年8月から11月末日までに、下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますとともに報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、何度もご寄付くださった方もお名前を一回にさせていただいております。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 野村 純一／財務委員会

## ●賛助会費 A

服部 啓子	大島 恭子	榎本 和	水谷 宣美	森 宣子
大矢 道	木本精之助	山下志津代	中野 悦美	出口美津江
カトリック聖霊奉待布教修道女会				

## ●賛助会員 B

河野 富夫	岩田 久夫	中川 隆	岡部美代子	豊島 徳三
森岡 鎰	鈴木ひろみ	岩田明・圭子	平井 瑞子	中村かつ代
芝原 慶次	坂東 信吾	志村 信夫	堀田 直子	松岡 朱美
柳澤 幸輝	村井 みほ	青山 玄	植田 望	初井 英夫
江崎 好美	倉地志か子	遠山千寿子	溝口 興治	橋本 茂乃
鳥居 平和				

## ●賛助会費 C

鈴木 浩之	中出智恵子	藤垣 鉞雄	志村 澄江	寺田 弘子
川原 恵	飯塚 悦子	江口志のぶ	栗田 昌子	福田 忠徳
宮川かをり	山下 美幸	田中 節子	徳永 美晴	園部 恭久
藤井 恵	藤居 直哉			

## ●寄付金・個人 (25周年記念寄付を含む)

牛嶋 敦子	江口志のぶ	梶原 壽	金子 紀子	小林 弘子
坂戸 貞子	鈴木 郁雄	加藤 厚子	森岡 鎰	橋本 良男
常富 佳子	大島 恭子	小笠原 覚	柘植 幹夫	安原 律子
加藤 倫子	稲垣 吉孝	中川 鋪子	辻 さち子	安藤 和彦
松村 睦子	松本 勝正	渡辺 直人	加藤 明宏	小坂橋秀行
佐藤あさ子	辻 敬一郎	湯瀬美知子	宮里 及子	水谷 巍
八木 武志	野口 武夫	鰐部可壽子	瀬戸口マサ子	大前 智子
原 セツ	川村佳代子	岡村 晴美	福原 満江	戸田 伊助
須田 紘子	佐野 純子	青木寿美子	秋田あや子	水野 愛子
神野 啓子	近藤 直枝	野村 純一	土屋美恵子	永井 玲子
神谷 史	田口 恵子	笠井 康助	前田 誠一	宮田喜代子
土江三千代	中川 幸子	加藤みゆき	高橋由美子	古橋 義之
吉岡満智子	三宅 功	森川 信子	小川 邦泰	山下 美幸
長岡 利貞	佐藤 治郎	加藤 峯子	金子 範子	太田智恵子
加藤 省吾	鈴木 栄子	白崎満喜子	久野 泰子	石河 孝益
木本精之助	山下タカ子	下村 徹嗣	高橋紀代子	今枝 靖夫
中野 廣子	橋本 茂乃	福原 満江	安藤貴美子	中野 悦美
植田 望	木村 正江	野村タツ子	中西 誓子	永井 洋子
水谷 伸江	豊田 江美	竹内 昌枝	川北 誠	鈴木 千鳥
小野 宏	須田 静代			

## ●寄付金・団体 (25周年記念寄付を含む)

川名聖霊修道院	武田ビル(株)	(株)オチアイネクス
宗教法人 薬師寺	(株)みどり造園	興 禅 寺
聖パウロ女子修道会	永 澤 寺	日本基督教団鳴海教会婦人会
宗教法人専念寺	栄冠幼稚園	カトリック平針教会
岐阜いのちの電話	三重いのちの電話	崇 覚 寺
在日大韓基督教会名古屋教会女性会	日本キリスト教団愛知教会	

## ●クリスマス募金

杉藤はる子	相馬 幸子	竹内 宏子	五藤 昭子	堤 肇
-------	-------	-------	-------	-----

## ●法人会費

(株)サンゲツ	杉山工業(株)	矢作建設工業(株)	豊田合成(株)
---------	---------	-----------	---------

## ●助成金

東海・経営と心の会



# 公開講座のお知らせ

社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
2010年 自殺予防のための厚生労働省補助事業 公開講演&公演  
「ボランティア活動と自殺予防のいのちの電話」

講師 梶原 壽 (日本 M.L.キング研究 幹事)



guitar 梶原 順



vocal 上新功祐

## Jun Kajiwara Live in WINC Aichi

2011 1/24(月) 18:00開場 | 18:30開演

会場 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター)

### 演奏予定曲目

見上げてごらん夜の星を  
上をむいて歩こう  
My One and Only Love  
I Believe  
涙そうそう  
ボクにはキミ、キミにはボク  
存在  
(変更する場合があります)



### 交通アクセス

□ (JR・地下鉄・名鉄・近鉄) 名古屋駅より徒歩2分

### 梶原順プロフィール

幼少の頃よりピアノを弾き、中学2年の時にガットギターを手にする。  
現在はスタジオワーク、セッションライブに加え、「渡辺貞夫グループ」「本田雅人Band」の活動、そして「自身のソロ活動」とともにソロアルバムを3枚リリース、また洗足学園音楽大学講師、昭和音楽大学講師として後輩の育成、4CREATOR.com (オンライン・ギター・レッスン) の監修を手がけるなど、その動きは留まるところを知らない・・・。

ホームページ: <http://www.junkajiwara.com/>

### 参加申込/問合せ

社会福祉法人愛知いのちの電話協会事務局

☎ 052-508-8381

(月～金 10:00～18:00)

参加費 1000円 定員 300名



「自殺予防 いのちの電話」は、悩み苦しんでいる人の“こころ”が和らぎ、希望と勇気をもって再び生きていかれることを願い開設されました。

<http://www.find-j.jp/>

日本いのちの電話連盟

主催：一般社団法人 日本いのちの電話連盟 後援：厚生労働省

～期間以外は各地域ごとに相談を受けています～

あなたがつらいとき、近くにいます。

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

## 自殺予防 いのちの電話

0120-738-556

毎月10日(☎フリーダイヤル)24時間・無料です(8:00～翌日8:00)

### 「編集後記」

既にお気づきかと存じますが、毎年3回定期配信しております「名古屋いのちの電話」は25周年記念号から、紙面を刷新いたしました。時代に即したA4判で、カラー印刷でお送りすることになりました。と同時に、過去の会報もインターネット上で閲覧出来るようになっております。併せて購読ください。

自殺者数は依然減少していません。こうした悲しい知らせを聴かないように、私たち相談員ひとりひとりが精を尽くして悩みを聴いております。この事業を持続できますのも、ひとえに皆様方のご支援によるものと存じます。変わらぬお力添えをお願いいたします。



この「名古屋いのちの電話」の機関誌は、共同募金配分金の一部を使って作成されました

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱第 257号

名古屋いのちの電話 <http://www.nagoya-inochi.jp/>

♣ 事務局電話 052-508-8381

2010年12月15日発行

♣ 相談電話 052-931-4343 (前回の電話番号は間違いです。お気を付けてください。)

♣ 携帯相談電話 NTTドコモ東海「#9556」

発行人 野村 純一 編集人 広報委員会